

統合国際深海掘削計画 (IODP) 会議報告書

提出年月日： 平成 24 年 6 月 15 日

氏名： 山田 泰広

所属（職名）： 京都大学 工学研究科 (准教授)

会議名	PEP: Proposal Evaluation Panel (提案書評価パネル)
期間	平成 24 年 5 月 12 日～平成 24 年 5 月 17 日 (移動行程を含む)
用務地 (国・都市)	英国・エジンバラ市
目的	IODP-MI に提出された掘削提案書及び外部評価を受けた提案書の評価 (合計 20 提案書)
<p>会議内容及び報告事項 (主に会議での決定・合意事項等について記載してください)</p> <p>本会議の目的は、2012 年 4 月 1 日までに IODP-MI に提出された新規提案書と修正提案書の評価を行うこと、および外部評価者から提出された評価書とそれに対する提案者からの返答 (PRL) に基づく最終評価を行うことである。評価を行った提案書は合計 20 件で、その内訳は、修正後の再提出 3 件 (Full/CPP/APL 各 1 件), 外部評価 2 件 (Full), 新規提出 15 件 (MDP2 件, CPP1 件, Full4 件, Pre8 件) である。</p> <p>会議は予定通り 14 日 (月) 午前 8:30 から行われた。総合議長 (Chair) かつ今回の Host でもある Dick Kroon が全体の議事進行を担当した。同じく共同議長 (Vice-chair) である Clive Neal: Earth Connection, 高野淑識: Biosphere Frontier, Amelia Shevenell: Climate and Oceans, 山田泰広・Michi Strasser: Earth in Motion が、全体議事の補佐と分科会の議事進行を担当した。出席者は、PEP 委員 34 名 (代理なしの欠席者=インド 1 名) および陪席者 34 名 (各組織・委員会代表など) で、日本から出席した PEP 委員は、村山雅史、道林克禎、森下知晃、西弘嗣、尾鼻浩一郎、鈴木庸平、高野淑識、高澤栄一、山田泰広、横山祐典の 10 名であった。</p> <p>開会宣言に続き、委員・陪席者の自己紹介、PEP と SAS の役割に関する説明、SIPCOM の 1 月会議での合意事項の説明、本会議の議程表の説明と承認、本会議での評価基準の説明、利益相反の申告が行われた。小休憩の後、各 Agency からの報告、IODP-MI から提案書の統計分類結果の報告、各 IO (CDEX, USIO, ESO) の報告があった。その後、SIPCOM からの要求に応じて提案書を分析・分類した結果について Kroon 総合議長から報告があった。</p> <p>昼食後、20 提案書の 4 つの分科会への割り振りと 1 提案あたり 3 名の watch dog (WD) の指名があった。分科会での役割分担は、各議長：分科会議論の主導と全体会議での報告、WD1：担当提案書の説明、WD2：評価報告書ドラフトの執筆である。ドラフトは WD1 と WD3 の追記・修正を経て、会議終了時まで IODP-MI 担当者に提出する方針が確認された。引き続いて別会場にて各分科会が開始され、Earth Connection (3 件), Earth in Motion (5 件), Climate and Oceans (8 件), Biosphere Frontier (4 件) の分野毎に提案書の評価が行われた。17:15 に簡単な全体会議が行われ、各分科会での進捗状況が報告された。</p> <p>15 日 (火) 午前 8:30 から分科会が再開され、すべての提案書に関して議論が行われた。11 時から全体会議が開催され、各分科会での議論内容を基に、PEP としての最終評価が議論・合意された。</p>	

PEP recommendation は以下の通り。

Proposal #	Short title	PEP's recommendation
696-Full4	Izu-Bonin-Mariana Deep Forearc Crust	Forward to OTF
735-CPP	South China Sea Tectonic Evolution	Send to external review
778-Full2	Tanzania Margin Paleoclimate Transect	Forward to OTF
781A-Full	Hikurangi: observatory	Forward to OTF
791-APL2	Continental Margin Methane Cycling	Forward to OTF
792-Pre	Shiva Impact Structure	Deactivate
793-CPP	Arabian Sea Monsoon	Submit revised CPP
794-Pre	Arctic slope stability	Deactivate
795-Full	Indian Monsoon Rainfall	Submit revised full
796-Full	Ligurian Landslide	Submit revised full
797-Pre	Alaska Beaufort Margin	Develop MDP with 806 or Revise full
798-MDP	Gulf of Lion Drilling	Deactivate
799-full	Western Pacific Warm Pool	Submit revised full
800-full	Indian ridge Moho	Submit MDP
801-Pre	Brazil Argentina Margin Microbiology	Submit full
802-Pre	Marmara tectonics	Deactivate
803-pre	Greenland IceSheet	Deactivate
804-Pre	Antarctic Cryosphere Evolution	Deactivate
805-MDP	MoHole to the Mantle	Submit revised MDP
806-Pre	Beaufort Gas Hydrate	Develop MDP with 797 or Revise full

その後、2013年以降の枠組みに関する議論があった。第3回 PEP は、2012年12月第2週に京都で開催される予定（ホスト：山田）となった。最後に総合議長が閉会の辞を述べ、会議が閉幕した（17:30頃）。

今回の会場は、エジンバラ市中心地の **Edinburgh Carlton Hotel** の2階の会議室と分科会用の小会議室（2室）であった。委員各位への電源供給、無線 LAN によるインターネット接続、昼食・コーヒー・紅茶・菓子などの提供があり、夕食は各自負担であった。また、会議前日の13日（日）には著名な「**Hatton の不整合面**」を観察する野外地質見学会が開催された。

最後に、今回の会議を調整・準備された **D. Kroon** 総合議長、そして **IODP-MI**、**J-DESC** 執行部の配慮に、委員を代表して謝意を表す。

備考

本報告書には提案書の評価結果が書かれているため、**IODP-MI** からの正式な **Minutes** の発表後に公開されるべきである。それ以前は、本報告書の取り扱いに十分注意されるよう、関係各位に願います。

事務局又は **J-DESC** へのご要望・コメント等